

平成 29 年度事業報告

公益財団法人鈴木万平糖尿病財団は、「糖尿病分野に関する研究者の国際的研究交流を助成し、あわせて我が国における同分野の研究者の育成を図ることにより、糖尿病学研究の一層の推進を図り、もって学術の向上発展に寄与する」ことを目的として、平成 29 年度（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）において、定款第 4 条に定める事業を実施した。

当該期間において次に掲げる事業は、基本財産及び特定資産等の運用益並びに特定資産の取り崩しにより実施した。

1. 定款に定める公益目的事業

助成事業（公 1）	(1) 糖尿病の研究に従事する研究者の海外留学に対する助成 (2) 糖尿病の研究に従事する外国人研究者の招聘に対する助成 (3) 糖尿病に関する会議・シンポジウムに対する助成 (4) 糖尿病に関する調査研究に対する助成
褒賞事業（公 2）	糖尿病の予防・治療等における国内の優れた業績に対する褒賞
褒賞事業（公 3）	糖尿病に関する国内外の優秀な研究実績に対する褒賞

2. 平成 29 年度公益目的事業

(1) 助成事業（公 1）の選考

開催年月日・場所	議 事	会議の結果
選考委員会 平成 28 年 11 月 7 日 (パレスホテル東京)	1. 平成 29 年度助成候補の選考 (1) 海外留学助成 6 名 (2) 外国人研究者招聘助成 1 件 (3) 会議・シンポジウム助成 4 件 (4) 調査研究助成 3 件 2. 平成 27 年度調査研究助成(Ⅱ)2 件 及び平成 28 年度調査研究助成 3 件 の継続の可否	1. 海外留学 6 名、外国人研究者招聘 1 件、会議・シンポジウム 4 件、調査研究 3 件を選定し、海外留学助成候補者は面接選考に、それ以外の助成候補は理事会に諮ることとなった 2. 平成 27 年度調査研究助成(Ⅱ)2 件のうち 1 件は、未だ研究を開始していないこと、また助成金の用途についても疑義があることから平成 29 年度の助成は打ち切ることと決定し、それ以外の調査研究助成については助成継続と判定した
面接選考 平成 28 年 11 月 25 日 (日本橋ビル) 平成 29 年 1 月 6 日 (大阪大学)	平成 29 年度海外留学助成候補者の面接選考	各候補者の資質・学識及び語学力につき面接審査を行ったところ、面接した 5 名とも適格と判定し理事会に諮ることとなった 身体的事由により欠席との事前連絡があった 1 名については後日実施し、適格の旨を全理事に報告し了承された

(2) 褒賞事業（公2）の選考

開催年月日・場所	議 事	会議の結果
国内褒賞審査委員会 平成 28 年 10 月 14 日 (霞山会館)	1. 審査委員長の選定 2. 平成 29 年度（第 10 回）糖尿病療養指導鈴木万平賞受賞候補の選考	1. 寺内康夫審査委員が選定された 2. 推薦 4 件の中から 3 件を受賞候補として、理事会に諮ることとなった

(3) 褒賞事業（公3）の選考

開催年月日・場所	議 事	会議の結果
国際褒賞審査委員会 平成 29 年 8 月 4 日 (帝国ホテル)	平成 29 年度（第 10 回）鈴木万平記念糖尿病国際賞受賞候補者の選考	推薦 13 名の中から受賞候補者を選定し、理事会に諮ることとなった

(4) 公益目的事業に係わる議案の理事会における承認

開催年月日・場所	議 事	会議の結果
平成 28 年度第 1 回 平成 28 年 5 月 23 日 (パレスホテル東京)	1. 平成 29 年度公益目的事業の件 (1) 助成事業 ①海外留学助成 6 名 ②外国人研究者招聘助成 1 件 ③会議・シンポジウム助成 5 件 ④調査研究助成 3 件 (2) 国内褒賞事業 3 件 (3) 国際褒賞事業 1 名 2. 選考委員選任の件	1. 助成事業、褒賞事業とも原案のとおり募集する旨が承認された 2. 専任委員を含め、全選考委員の再任が承認されるとともに、運営規程を改正し、委員長不在時等は理事長が委員会を招集できる旨を決議した (国内褒賞審査委員会及び国際褒賞審査委員会の運営規程も同決議)
平成 28 年度第 2 回 平成 28 年 12 月 5 日 (パレスホテル東京)	1. 平成 29 年度助成事業の件 (1) 海外留学助成 6 名 (2) 外国人研究者招聘助成 1 件 (3) 会議・シンポジウム助成 4 件 (4) 調査研究助成 3 件 2. 平成 29 年度（第 10 回）国内褒賞事業の件 3. 平成 29 年度事業計画及び収支予算(案)の件	1. 平成 27 年度調査研究助成（Ⅱ）1 件の助成打ち切りの他は、原案のとおり助成する旨が承認された 2. 原案のとおり承認された 3. 原案のとおり承認された
平成 29 年度第 2 回 平成 29 年 12 月 13 日 (パレスホテル東京)	平成 29 年度（第 10 回）国際褒賞事業の件	原案のとおり承認された

(5) 公益目的事業の概要

公益目的事業	金額	内容
助成事業		
海外留学助成 1.	24,000,000 円	平成 29 年度新規 (@400 万円×6 名)
同上 2.	24,000,000 円	平成 28 年度継続 (@400 万円×6 名)
外国人研究者招聘助成	993,000 円	@100 万円×1 件 *左記金額の振込依頼による
会議・シンポジウム助成	4,000,000 円	@100 万円×4 件
調査研究助成 1.	7,500,000 円	平成 29 年度新規 (@250 万円×3 件)
同上 2.	7,500,000 円	平成 28 年度継続 (@250 万円×3 件)
同上 3.	2,500,000 円	平成 27 年度継続 (@250 万円×1 件)
事業推進費	248,400 円	募集広告関係費用
小 計	70,741,400 円	
選考委員会・面接選考	1,879,541 円	開催関係費用
合 計	72,620,941 円	
褒賞事業 (国内褒賞)		
第 10 回糖尿病療養指導鈴木万平賞	9,302,508 円	正賞楯、副賞、記念品
	2,506,904 円	表彰式関係費用
	615,600 円	募集広告関係費用
小 計	12,425,012 円	
国内褒賞審査委員会	865,902 円	開催関係費用
合 計	13,290,914 円	
褒賞事業 (国際褒賞)		
第 10 回鈴木万平記念糖尿病国際賞	16,474,080 円	正賞楯、副賞、記念品
	9,160,422 円	表彰式関係費用
	3,252,060 円	募集広告関係費用
	3,240,000 円	業務委託費
小 計	32,126,562 円	
国際褒賞審査委員会	3,017,142 円	開催関係費用
合 計	35,143,704 円	
総 計	121,055,559 円	

各公益目的事業の詳細は、附属明細書のとおりである。

3. その他

(1) 平成 30 年度助成事業（公 1）の選考

開催年月日・場所	議 事	会議の結果
選考委員会 平成 29 年 10 月 30 日 (パレスホテル東京)	1. 平成 30 年度助成候補の選考 (1) 海外留学助成 6 名 (2) 外国人研究者招聘助成 1 件 (3) 会議・シンポジウム助成 5 件 (4) 調査研究助成 3 件 2. 調査研究助成継続の可否	1. 海外留学 6 名、外国人研究者招聘 1 件、会議・シンポジウム 5 件、調査研究 3 件を選定し、海外留学助成候補者は面接選考に、それ以外の助成候補は理事会に諮ることとなった 2. 平成 29 年度調査研究助成のうち 1 件については、施設拡充等により早く開始するようにとの委員長からの伝言を連絡することとなった
面接選考 平成 29 年 11 月 15 日 (日本橋ビル)	平成 30 年度海外留学助成候補者の面接選考	候補者 6 名の資質・学識及び語学力につき面接審査を行ったところ、最終的には 6 名とも適格と判定し、理事会に諮ることとなった

(2) 平成 30 年度国内褒賞事業（公 2）の選考

開催年月日・場所	議 事	会議の結果
国内褒賞審査委員会 平成 29 年 10 月 12 日 (霞山会館)	平成 30 年度（第 11 回）糖尿病療養指導鈴木万平賞受賞候補の選考	推薦 6 件の中から 2 件を受賞候補として、理事会に諮ることとなった

(3) 平成 30 年度公益目的事業に係わる議案の理事会における承認

開催年月日・場所	議 事	会議の結果
第 1 回 平成 29 年 6 月 1 日 (パレスホテル東京)	1. 平成 30 年度公益目的事業の件 (1) 助成事業 ①海外留学助成 6 名 ②外国人研究者招聘助成 1 件 ③会議・シンポジウム助成 5 件 ④調査研究助成 3 件 (2) 国内褒賞事業 2 件 (3) 国際褒賞事業 1 名	1. 国内褒賞事業については、推薦資格に日本糖尿病療養指導士認定機構の理事を追加するとともに直近の応募状況等を勘案し募集を 3 件以内から 2 件以内とすることが、助成事業及び国際褒賞事業については、前年度と同様の内容で募集することが承認された
第 2 回 平成 29 年 12 月 13 日 (パレスホテル東京)	1. 平成 30 年度助成事業の件 (1) 海外留学助成 5 名 (2) 外国人研究者招聘助成 1 件 (3) 会議・シンポジウム助成 5 件 (4) 調査研究助成 3 件 2. 平成 30 年度 (第 11 回) 国内褒賞事業の件 3. 平成 30 年度事業計画及び収支予算(案) の件 4. 国内褒賞審査委員選任の件 5. 国際褒賞審査委員選任の件	1. 海外留学助成については、面接選考の候補として 6 名が適格とされたが、その後 1 名が辞退したため最終的に 5 名となったことが報告され、いずれの助成も原案のとおり承認された 海外留学助成額の見直しとともに利益相反による審議委員減員の影響を勘案して選考委員を 1~2 名増員すること、また減員となった場合の評価方策を検討する予定であることが報告された 2. 原案のとおり承認された 3. 原案のとおり承認された 4. 原案のとおり承認された 5. 原案のとおり承認された

附属明細書

□ 助成事業

海外留学助成 - 1 (平成 29 年度新規分 6 名)

氏名・所属	研究課題・研究項目・研究機関・研究指導者・助成期間
<p style="text-align: center;">杉本 誓</p> <p>京都府立医科大学 大学院医学研究科 小児発達医学</p>	<p>研究課題： Small for gestational age (SGA) 児の肥満・メタボリック シンドローム発症の機序解明</p> <p>研究項目： Small for gestational age (SGA) 児の成人期の肥満・メタボリック シンドローム発症の機序に褐色脂肪細胞が関与するか検証する</p> <p>研究機関： Joslin Diabetes Center</p> <p>研究指導者： Associate Professor Yu-Hua Tseng</p> <p>助成期間： 自 平成 29 年 4 月 1 日 至 平成 31 年 3 月 31 日</p>
<p style="text-align: center;">森川 俊太郎</p> <p>北海道大学 大学院医学研究科 小児科学分野</p>	<p>研究課題： Wolfram 症候群の病態解明、ならびに単一遺伝子異常による新生児・ 乳児糖尿病発症機序の研究</p> <p>研究項目： (1) 小児ストレス応答における WFS1 の役割と、その障害による 膵β細胞アポトーシス機序の解明 (2) iPS 細胞を用いた drug screening と、治療に有用な小胞体ストレス マーカーの探索</p> <p>研究機関： Washington University</p> <p>研究指導者： Professor Fumihiko Urano</p> <p>助成期間： 自 平成 29 年 4 月 1 日 至 平成 31 年 3 月 31 日</p>
<p style="text-align: center;">田島 一樹</p> <p>横浜市立大学 附属病院 内分泌糖尿病内科</p>	<p>研究課題： ベージュ脂肪細胞からの分泌蛋白による膵β細胞制御機構の解明</p> <p>研究項目： 膵β細胞量を制御する新規ベージュカインの同定と機能解析</p> <p>研究機関： University of California, San Francisco</p> <p>研究指導者： Associate Professor Shingo Kajimura</p> <p>助成期間： 自 平成 29 年 4 月 1 日 至 平成 31 年 3 月 31 日</p>
<p style="text-align: center;">寺脇 悠一</p> <p>福岡大学病院 内分泌・糖尿病内科</p>	<p>研究課題： テロメラーゼの研究</p> <p>研究項目： 血管内皮細胞におけるテロメラーゼの機能解明と動脈硬化形成における 役割の検証</p> <p>研究機関： University of Pittsburgh</p> <p>研究指導者： Associate Professor Dennis C. Bruemmer</p> <p>助成期間： 自 平成 29 年 10 月 1 日 至 平成 31 年 9 月 30 日</p>

氏名・所属	研究課題・研究項目・研究機関・研究指導者・助成期間
馬殿 恵 大阪大学 大学院医学系研究科 内分泌・代謝内科学	研究課題： 糖尿病発症における人種差を規定する因子の解明と新たな治療アプローチへの応用 研究項目： アジア人が欧米人よりも軽度の肥満で糖尿病を発症する原因の解明 研究機関： Harvard T.H. Chan School of Public Health 研究指導者： Professor Frank B. Hu 助成期間： 自 平成 29 年 10 月 1 日 至 平成 31 年 9 月 30 日
大内 亜由美 順天堂大学 医学部附属浦安病院 眼科	研究課題： 網膜マイクログリアに着目した糖尿病網膜症進展の病態解明と新規治療法の開発 研究項目： 糖尿病網膜症 研究機関： The Scripps Research Institute 研究指導者： Professor Martin Friedlander 助成期間： 自 平成 29 年 4 月 1 日 至 平成 31 年 3 月 31 日

海外留学助成 - 2 (平成 28 年度継続分 6 名)

氏名・所属	研究課題・研究項目・研究機関・研究指導者・助成期間
折目 和基 横浜市立大学 附属病院 内分泌・糖尿病内科	研究課題： 液性増殖因子による膵β細胞量調節機構の解明 研究項目： 1. 液性増殖因子の膵β細胞内での作用機序の解析 2. 液性増殖因子の発現制御機構の解析 3. 液性増殖因子とインスリンシグナルの相互作用の検討 研究機関： Joslin Diabetes Center 研究指導者： Associate Professor Rohit N. Kulkarni 助成期間： 自 平成 28 年 5 月 1 日 至 平成 30 年 4 月 30 日
小澤 公哉 千葉大学 医学部附属病院 検査部	研究課題： インスリン抵抗性の動脈硬化による血管内皮酸化ストレスや炎症への治療介入における新規分子画像評価法の開発 研究項目： インスリン抵抗性、動脈硬化、分子画像 研究機関： Oregon Health & Science University 研究指導者： Director Jonathan R. Lindner 助成期間： 自 平成 28 年 4 月 1 日 至 平成 30 年 3 月 31 日
佐々木 周伍 大阪大学 医学部附属病院 内分泌・代謝内科	研究課題： 糖尿病再生医療に向けた膵β細胞分化・成熟機構の解明 研究項目： 非β細胞からβ細胞へのリプログラミング促進因子の同定 研究機関： The University of British Columbia 研究指導者： Associate Professor Francis Lynn 助成期間： 自 平成 28 年 9 月 1 日 至 平成 30 年 8 月 31 日

氏名・所属	研究課題・研究項目・研究機関・研究指導者・助成期間
飯田 雅 順天堂大学 医学部附属 静岡病院 糖尿病・内分泌内科	研究課題： 膵β細胞における SERCA2 過剰発現が小胞体ストレスに及ぼす影響の検討 研究項目： 膵β細胞、細胞生理 研究機関： Indiana University 研究指導者： Associate Professor Carmella Evans-Molina 助成期間： 自 平成 28 年 9 月 1 日 至 平成 30 年 8 月 31 日
福田 一起 熊本大学 医学部附属病院 糖尿病・代謝・ 内分泌内科	研究課題： α細胞機能制御による新規糖尿病治療の開発 研究項目： α細胞由来 GLP-1 のβ細胞容積制御における生理学的意義の解明 研究機関： Joslin Diabetes Center 研究指導者： Associate Professor Rohit N. Kulkarni 助成期間： 自 平成 29 年 3 月 1 日 至 平成 31 年 2 月 28 日
赤澤 諭 長崎大学 保健・医療推進 センター	研究課題： 1型糖尿病における膵島特異的自己免疫の機序の解明と治療的修飾 研究項目： 1型糖尿病における膵島抗原特異的メモリーT細胞の免疫寛容誘導を目指した新規治療法の開発 研究機関： St. Vincent's Institute of Medical Research 研究指導者： Professor Thomas Kay 助成期間： 自 平成 28 年 4 月 1 日 至 平成 30 年 3 月 31 日

外国人研究者招聘助成（平成 29 年度 1 件）

招聘外国人研究者	受入責任者	A. 研究課題 B. 招聘目的
The University of Hong Kong Department of Biochemistry Research Associate King-Tung Chin	徳島大学先端酵素学研究所 糖尿病臨床・研究開発センター 糖尿病開発研究部門長・教授 親泊 政一	A. 小胞体レドックス調節機構の研究 B. 共同研究進展のための学内における講演会やスモールグループでのリサーチミーティング

会議・シンポジウム助成（平成 29 年度 4 件）

会合名・開催日・場所	責任者	参加人数	主催
第 32 回日本糖尿病・肥満動物学会 年次学術集会 平成 30 年 2 月 23 日～24 日 愛知県産業労働センター ウインクあいち（名古屋市）	横浜市立大学大学院医学研究科 分子内分泌・糖尿病内科 教授 寺内 康夫 てらうち やすお	205 名	日本糖尿病・肥満動物学会
第 29 回糖尿病性腎症研究会 平成 29 年 12 月 2 日～3 日 都市センターホテル（千代田区）	新潟大学保健管理センター 教授 鈴木 芳樹 すずき よしき	544 名	糖尿病性腎症研究会
第 45 回日本膵・膵島移植研究会 平成 30 年 3 月 2 日～3 日 江陽グランドホテル（仙台市）	東北大学医学系研究科 移植再生医学分野 教授 後藤 昌史 ごとう まさひ	200 名	日本膵・膵島移植研究会
グレリンとエネルギー代謝の恒常性 平成 29 年 4 月 22 日～23 日 京都市勧業館みやこめッセ （京都市）	国立循環器病研究センター 研究所長 寒川 賢治 かんがわ けんじ	70 名	International Symposium on Ghrelin and Energy Metabolism Homeostasis

調査研究助成 - 1（平成 29 年度新規分 3 件）

研究施設・責任者	研究タイトル・助成期間
新潟大学大学院 医歯学総合研究科 教授 南野 徹 みなみの とおる	研究タイトル： セマフォリンを標的とした新規糖尿病診断・治療の開発 助成期間： 自 平成 29 年 4 月 至 平成 31 年 3 月（2 年間）
近畿大学医学部 講師 能宗 伸輔 のうそ しのすけ	研究タイトル： 1 型糖尿病の病型診断および β 細胞破壊の新規バイオマーカーの 同定と臨床応用 助成期間： 自 平成 29 年 4 月 至 平成 32 年 3 月（3 年間）
国立成育医療研究 センター 医長 荒田 尚子 あらた なおこ	研究タイトル： 妊娠糖尿病・糖尿病合併妊娠の妊娠転帰および母児の長期予後に 関する登録データベース構築による多施設前向き研究 助成期間： 自 平成 29 年 4 月 至 平成 32 年 3 月（3 年間）

調査研究助成 - 2 (平成 28 年度継続分 3 件)

研究施設・責任者	研究タイトル・助成期間
国立成育医療研究センター 部長 深見 真紀	研究タイトル： 新規アプローチ法による小児期発症 1 型糖尿病の発症機序の解明 助成期間： 自 平成 28 年 4 月 至 平成 31 年 3 月 (3 年間)
糖尿病データマネジメント研究会 代表理事 前川 聡	研究タイトル： 全国多施設大規模共同研究による日本人糖尿病の死亡・心血管疾患発症の前向き観察研究によるリスク解析 助成期間： 自 平成 28 年 4 月 至 平成 31 年 3 月 (3 年間)
千葉大学大学院 医学研究院 助教 前澤 善朗	研究タイトル： 糖尿病性腎症ならびに糖尿病大血管障害の発症進展を制御するバイオマーカーの探索 助成期間： 自 平成 28 年 4 月 至 平成 31 年 3 月 (3 年間)

調査研究助成 II - 3 (平成 27 年度継続分 1 件)

研究施設・責任者	研究タイトル・助成期間
順天堂大学大学院 助教 三田 智也	研究タイトル： 2 型糖尿病患者の生活パターンと予後・臓器障害・代謝との関連性のコホート調査 助成期間： 自 平成 27 年 4 月 至 平成 30 年 3 月 (3 年間)

調査研究助成 II - 3 (平成 27 年度中止分 1 件)

研究施設・責任者	研究タイトル・助成期間
大阪大学大学院 医学研究科 助教 西田 健太郎	研究タイトル： 重症糖尿病網膜症に対する包括的治療の開発と実践 助成期間： 自 平成 27 年 4 月 至 平成 30 年 3 月 (3 年間)

□ 褒 賞 事 業

平成 29 年度（第 10 回）糖尿病療養指導鈴木万平賞

平成 29 年 10 月 12 日に霞山会館（千代田区）において表彰式並びに記念パーティーを開催した。

受 賞	推 薦 者	主 な 業 績
ぬのい きよひで 布井 清秀	なかの のりとし 中園 徳斗士 日本糖尿病協会 理事	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡県糖尿病協会（副称：日本糖尿病協会福岡県支部）の基盤確立及び発展への貢献 ・「21 世紀の日本糖尿病協会のあり方」の取り纏め ・地域糖尿病療養指導士制度の基盤確立及び発展への貢献
よねだ あきこ 米田 昭子	にわ 和子 氏 日本糖尿病教育・看護学会 理事	身体の感覚に働きかける看護ケアを通じた糖尿病療養支援
福岡小児糖尿病サマー キャンプ 「ヤングホークス」	いぐち とよよし 井口 登與志 日本糖尿病学会 理事	福岡小児糖尿病サマーキャンプ「ヤングホークス」の継続・発展 <ul style="list-style-type: none"> ・毎年のキャンプ活動の実践 ・キャンプなどを通じての 1 型糖尿病医療の発展への努力

平成 29 年度（第 10 回）鈴木万平記念糖尿病国際賞

平成 30 年 3 月 7 日に経団連会館（千代田区）において表彰式・記念講演会並びに記念パーティーを開催した。

受賞者	推薦者	主な業績
<p>Susumu Seino, MD, DMSci Professor and Endowed Chair Division of Molecular and Metabolic Medicine, Department of Physiology and Cell Biology, Kobe University Graduate School of Medicine</p>	<p>Graeme I. Bell, PhD Kovler Family Distinguished Service Professor in Medicine and Human Genetics, The University of Chicago</p> <p>Nobuya Inagaki, M.D., PhD Professor and Chair Department of Diabetes, Endocrinology, and Nutrition, Kyoto University Graduate School of Medicine.</p>	<p>インスリン分泌を制御する細胞内シグナル伝達経路は、2 型糖尿病の分子レベルにおける病因と治療を理解するために非常に重要であり、同博士はそのインスリン分泌を制御する細胞内シグナル伝達経路における多くの画期的発見をされました。審査委員会はこれらの功績を、長年に亘る、広範囲の革新的な貢献と高く評価しました。</p>